

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和2年12月21日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	善本智佳

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
愛知県犬山市 日本モンキーセンター	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
動物園・博物館実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
令和3年12月12日 ~ 令和3年12月14日 (3日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
日本モンキーセンター キュレーター、新宅勇太博士	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の渡航では、犬山にて動物園・博物館実習に参加した。 本実習では、生体資料の維持や展示、治療、死後の標本化の過程など有意義で興味深い経験を得ることができた。	
日程は以下のとおり。 12/12 犬山着。午前中に新宅氏からガイダンスを受け、伊谷原一教授から、日本の霊長類学と日本モンキーセンターの成り立ちについて講義を受けた。午後は新宅氏から資料、特に非生体資料の保管や展示について説明を受け、実際に標本作成の一工程を見学し、その後骨標本の保管を体験させていただいた(写真1)。 12/13 午前に動物園維持の仕事を経験した。ポリビアリスザル(写真2)の個体識別と、エンリッチメントのためのハンモックを編んだ。個体識別は健康管理や群れの維持などだけでなく、学術的にも有益であり、野外では観察が難しい個体間の作用や行動を継続して記録することができることを知った。午後には、入園者管理や博物館としての動物園の意義などについて学んだ。 12/14 午前中はセンター内を見学した。赤見キュレーターに解説していただいたおかげで、一層楽しむことができた。午後には園内の診療所にて麻酔を伴うレッサースローロリスの歯科治療を見学した。	
	
写真1. ワオキツネザルの骨。	写真2. ポリビアリスザル。
6. その他 (特記事項など)	
伊谷教授、新宅氏、赤見氏、寺尾氏、高野氏をはじめ、滞在中お世話になった方々に感謝申し上げます。	